# 令和3年度 協議体の取り組みについて

地域のみなさんの「いくつになっても住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けたい」との願いを叶えられるように、協議体では支えあいや社会参加の充実した地域づくりを進めています。コロナ禍の影響で地域活動が中止になるなど、人との交流が控えられる状況が続いていますが、このような時だからこそ住民同士のつながりが大切であることを構成員みんなで意識共有し、地域の実情に応じた取り組みを進めました。

〇横手市協議体

◆構成員　各地域協議体代表者（８名）

※いきいきサロン、商工会青年部、福祉協力員、ボランティア組織、育英会役員・事務局長、交流センター、民生委員、主任児童委員など

◆概　要

「移動手段が少なく、買い物支援を必要とする世帯が増えている」ことや「コロナ禍で交流機会が減り孤独を感じている高齢者が多い」との課題を踏まえて必要な取り組みを協議した。その結果、市内の移動販売業者を一覧にまとめて地域協議体やつどいの場への訪問などをとおして地域へ周知したほか、コロナ禍でもできる世代間交流を進めるため、学校や老人クラブに協力を呼びかけながらハガキによる相互交流や屋外での交流活動の支援を行った。

《主な取り組み》

・支えあいや社会参加などを呼びかける広報用チラシの作成と発行。

・コロナ禍でもできる交流活動の検討と、学校との連携による世代間交流の促進。

子どもから届いた暑中見舞いに写真や動画で感謝をお届け

## 【東部地域】

### ○横手地域協議体「よこて支えあいネット」

◆構成員　民生委員、主任児童委員、福祉協力員、老人クラブ、いきいきサロン、婦人会、ＮＰＯ、子育てサークル、公民館、社協職員など（１３名）

◆概　要

関係機関からも会議に出席いただきながら「雪」や「移動」をテーマとしたグループワークを行い、関連する地域資源やニーズの把握、必要な取り組みの検討を行った。なお、「移動」に関しては、既存の移動支援サービスが活用しやすいように、構成員自身が利用体験を行いながらチラシで利用方法を地域へ周知した。

《主な取り組み》

- 支えあいや社会参加を啓発するポスターを作成し、公民館やコンビニ、郵便局などへ掲示。
- 移動支援サービスの内容や利用方法を周知するチラシの作成と配布。

移動支援サービスの内容などを周知するチラシ

### ○山内地域協議体「さんない生活支えあいたい」

◆構成員　民生委員、福祉協力員、劇団代表、婦人会、共助組織、食材納入組合、ＪＡ秋田ふるさと職員など（１０名）

◆概　要

山内地区交流センターの立ち上げに向けて、「地域づくり部会」や「生涯学習部会」が設置された。この部会では、地域課題の把握や必要な取り組みを検討するなど、協議体と共通する部分が多いことから、構成員が各部会に参加し、これまでに把握した地域資源の情報提供を行いながら連携して協議を進めた。

温泉施設と打ち合わせを重ねてきた「移動支援を含めたつどいの場」について、令和４年６月頃からの開催に向けて参加者の募集を行っている。

《主な取り組み》

- 地区交流センターの設置に向けた地域づくりや生涯学習の部会へ出席し、地域課題の把握や必要な取り組みを一緒に検討した。
- 温泉施設との連携によるつどいの場の開催に向けた打ち合わせと参加者の募集。

つどいの場の開催に向けた温泉施設との打ち合わせ

## 【南部地域】

### ○増田地域協議体「支えあいますだねっと」

◆構成員　共助組織代表、福祉施設職員、商工会青年部、市教育委員会、民生委員、ボランティア活動者、いきいきサロン、地区交流センター、市職員など（１６名）

◆概　要

協議体定例会での話し合いが活発になるように、定例会は小人数にわかれてのグループワーク形式で行い、地域資源や課題についての情報交換を行った。また、把握した資源を活かして解決できる課題を探るため、情報の整理を行った。

つどいの場の立ち上げに関するチラシを全戸配布したほか、町内会へつどいの場に関する説明を行い、新たなつどいの場の立ち上げにもつながっている。

《主な取り組み》

・つどいの場への参加促進と、新たなつどいの場の立ち上げを目的としたチラシの作成と配布。

・地域社会資源や生活課題を把握するためのグループワークの実施。

グループワークによる情報交換の様子

### ○平鹿地域協議体「ひらか支え愛ねっと」

◆構成員　町内会長、民生委員、福祉協力員、ボランティア活動者、地区会議、いきいきサロン、ＪＡたすけあい組織、商工会女性部、交流センターなど（１４名）

◆概　要

協議体の目的や役割に関する構成員研修を行い、これまでの取り組みを振り返りながら、今後の協議体の方向性について意見交換を行った。

地域課題だけではなく、地域行事や地域の活性化につながる活動、身近にある支えあいの取り組みなどに焦点を当てた情報収集と情報の整理を進めており、社会参加や支えあいの取り組みの拡大に向けて話し合いを行っている。

《主な取り組み》

・協議体の役割に関する構成員研修の実施。

・地域行事や伝統文化、ボランティア活動者などの地域のお宝に関する情報交換。

構成員研修の様子

○十文字地域協議体「まめ☆だすか ささえあいネット十文字」

◆構成員　ＰＴＡ会長、民生委員、福祉協力員、いきいきサロン、商工会、
老人クラブ、ボランティア活動者、公民館、交流センター、
地域活性化グループ、市職員、社協職員など（１３名）

◆概　要

地域の小・中学校がコミュニティスクールのモデル校に指定されたことから、世代間交流をとおした高齢者の社会参加の促進や児童・生徒が担い手として地域で活躍できるように、学校からも定例会に参画いただきながら取り組みの検討を行った。現在は定例会で提案されたな内容の整理を進めており、今後は実現に向けて学校や地域への働きかけを行うこととしている。

《主な取り組み》

・世代間交流に関する取り組みに向け、学校と協議体との情報交換や意見交換。

・つどいの場への参加促進や生きがいづくりにつながるように、世代間交流やサークル活動をチラシで周知。

サークル活動や学校と地域との交流活動をチラシで周知

## 【西部地域】

### ○雄物川地域協議体「おもの川支えあいネット」

◆構成員　民生委員、福祉協力員、老人クラブ、交流センター、共助組織、
地域活性化グループ、地区会議、直売の会、社協職員など（１６名）

◆概　要

アンケート調査の結果、移動手段が少ないために買物を支援する取り組みが必要との意見が最も多かったことから、買物支援や健康づくりを兼ねたつどいの場づくりを進めることとし、地元の福祉施設から送迎車両を借り、スーパーからは会場を提供いただきながらつどいの場の開催支援を行った。

生活支援を行うボランティア団体やケアマネジャー等との情報交換を行い、地域で必要とされる生活支援の取り組みについての検討を行った。

《主な取り組み》

・買い物や交流を支援するため、スーパーや福祉施設、福祉関係者と連携してつどいの場を開催。
・生活支援ボランティアやケアマネジャー等を招き、地域で必要とされる生活支援の取り組みについての意見交換。

スーパーを会場としたつどいの場の様子

### ○大森地域協議体「おおもり支えあい協議体」

◆構成員　町内会長、民生委員、地域活動者、育英会役員・事務局長、
交流センター運営協議会委員、いきいきサロン、市職員など（１３名）

◆概　要

協議体と地区交流センターの取り組みには共通点が多いほか、町部と山間部では生活課題にも違いがあることから、構成員が住まいの地域ごとに分かかれ、交流センター長や福祉関係者との情報交換を行ったほか、連携に向けた協議を行った。

新型コロナの影響により定例会を中止することもあったが、ひとり暮らし高齢者世帯への訪問活動を行いながら、随時生活課題等の把握を行った。

《主な取り組み》

・地区交流センターや福祉関係者との連携強化と協働に向けた情報交換。
・地域の交流活動を取材し、チラシにより地域へ情報発信。

地区交流センター長や福祉関係者との情報交換会

○大雄地域協議体「大雄支えあいネット」

◆構成員　民生委員、主任児童委員、福祉協力員、いきいきサロン、婦人会、老人クラブ、商工会女性部、福祉施設職員など（１７名）

◆概　要

地域のどなたでも参加できるつどいの場「みんなのカフェ」を地域住民が活躍できる場になるように、昨年度から協議体での協議やボランティアの募集などを行ってきた結果、今年度からは社会福祉法人による送迎支援やボランティアによる体操指導、健康チェックなどが行われるようになっている。

社会参加の拡大をめざし、つどいの場を支援する助成金の情報や開催支援を行うボランティアの情報をチラシにより周知した。

《主な取り組み》

・つどいの場で活用できる助成金の情報やボランティアによる活動支援などをチラシで周知。

・地域資源や生活課題等に関する情報交換と必要な取り組みについての意見交換。

ボランティアの協力により開催する「みんなのカフェ」